特集1

令和8年度版高等学校

『美術1』のご案内



「一生ものの、美術の力を。」

生徒が自分の表現を追求し、生涯にわたって美術に親しめるように。
そのような思いで、教科書を編集しました。
編集委員の先生方とともに、新版教科書の魅力をご紹介します。

イラスト 海道建太、SANDER STUDIO

新企画！

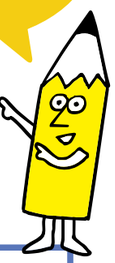
「鉛筆BOOK」

新版教科書では、表現の基本となる鉛筆デッサンを特集したページを
新設しました。鉛筆の削り方からデッサンのポイントまで、詳しく解説しています。



P.81「鉛筆BOOK」

鉛筆の全てがわかる!



鉛筆の動画が
全10本

動画一覧

①鉛筆の削り方
②鉛筆の持ち方
③1ますごとのグラデーション
④ひと続きのグラデーション
⑤練りゴムの使い方
⑥ぼかし方の基本
⑦リンゴを描く
⑧質感の異なるものを描く
⑨石膏（せっこう）像（ぞう）を描く
⑩手を描く





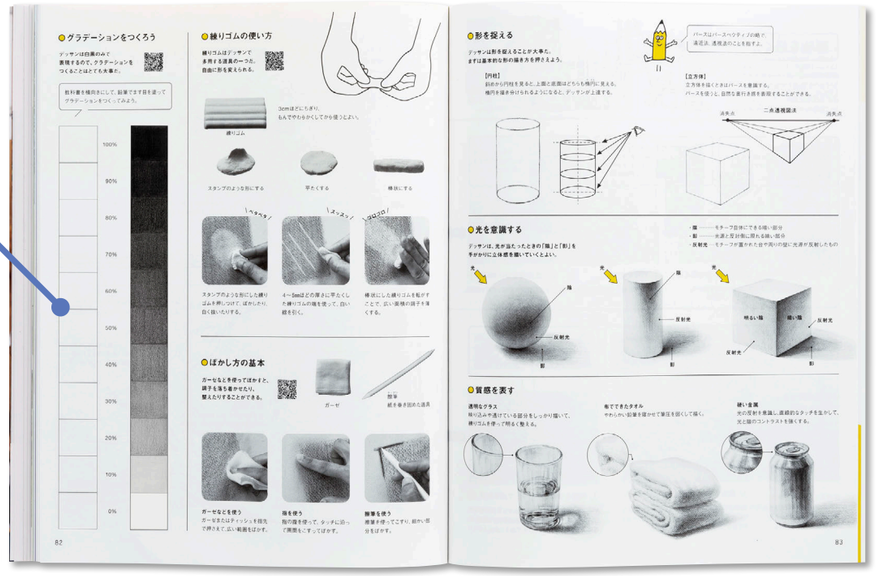


鉛筆の動画は
こちらから。



教科書に
直接
描き込める!

描き込みやすい用紙を採用。教科書に直接塗って、自分でグラデーションをつくることができます。



P.82～83「鉛筆BOOK」

＼編集委員が選ぶ“私のイチオシ”ページ／

教科書編集に携わった先生方に、おすすめのページをご紹介いただきます。



渡辺晋輔（わたなべしんすけ）
国立西洋美術館学芸課長

美術史の年表は西洋美術、日本美術、デザイン、写真、映像表現と五つの分野に分け、見開きページとしてあるので、それぞれの変遷をわかりやすく見ることができます。教科書に掲載されている作品がどの時代に制作されたものなのか、一目瞭然でしょう。

また有名な作品の図版をちりばめた他、それぞれの時代について簡潔にして要を得た解説を付したので、このページを見るだけでも、おおよその美術史の流れを身につけることができるはずです。さらにイラストによって用語の解説がなされていることや、QRコードを通じて解説動画ともリンクしていることは、この年表の（年表にとどまらない）特徴です。美術史のかなり深いところまで学習することができるのではないでしょうか。

1 美術史年表がパワーアップ！

美術史年表を刷新しました。
見開きページに、作品図版と
QRコードを多数掲載。
分野ごとに年表を位置づけたので、
題材と紐（ひも）づけながら
美術史を学ぶことができます。





年表は分野ごとに用意しました

- ●西洋美術史 年表（P.42〜45）
- ●日本美術史 年表（P.46〜47）
- ●デザイン史 年表（P.64〜65）
- ●写真史 年表（P.76〜77）
- ●映像表現史 年表（P.78〜79）



P.42〜44「西洋美術史 年表」

解説動画でもっと詳しく！

QRコードから、美術史用語や作家、作品の解説動画を視聴できます。

解説動画
「シュルレアリスム」



ダリやマグリットなど、シュルレアリスムを代表する作家や作品について、わかりやすく解説しています。

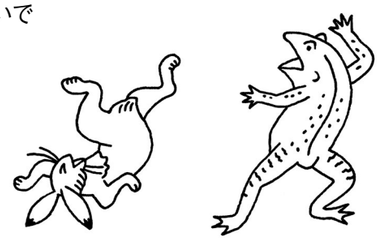
題材へのリンク

▶P.16「想像した世界を描く」

題材へのリンクを示しているので、関連づけながら美術史を学ぶことができます。

2 質感が味わえる鑑賞題材

「鳥獣人物戯画 甲巻」「松林図屏風」
「名所江戸百景 大はしあたけの夕立」は、和紙風の用紙に印刷しました。
色合いや質感を、より本物に近い風合いで
鑑賞することができます。



和紙のような風合い!

本物に近い風合いを再現するため、越前和紙の風合いをもつ高級用紙に印刷しました。

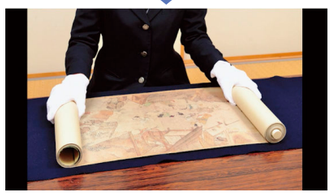


解説動画でもっと詳しく!

QRコードから、作品の解説動画を
視聴することができます。

解説動画
「鳥獣人物戯画 甲巻」





「鳥獣人物戯画 甲巻」の構成、絵巻物の鑑賞のしかたなどを詳しく解説しています。

鑑賞が深まる解説

より鑑賞を深められるよう、随所に吹き出しでポイントを示しています。

原寸大で掲載

豊かな筆使いや多様な墨の表現を、細部までじっくり鑑賞することができます。



P.28〜33「鳥獣人物戯画 甲巻」

日本美術の多くは、当時使われていた和紙に描かれていますので、和紙のような風合いの用紙に印刷することで、ぐっと本物に近い感覚で鑑賞することができます。

例えば、両観音開きで始めから終わりまで大胆に掲載した「鳥獣人物戯画 甲巻」。動物たちの生き生きとした表情や、ユーモアたっぷりに描かれたそのストーリー性を、質感とあわせて高校生にじっくりと味わってほしいなと思います。

また、「松林図屏風」(長谷川等伯)、「名所江戸百景 大はしあたけの夕立」(歌川広重)も、和紙風の用紙に大きく印刷されています。ぜひ、細部まで鑑賞してみてください。



安村敏信
北斎館館長・
静嘉堂文庫美術館館長

3 表現のヒントになる「作家の手法」

高校生の発想・構想のヒントとなるよう、「作家の手法」というページを設けました。画家、デザイナーなど第一線で活躍している作家が、作品をどう発想し制作しているのかを詳しく紹介しています。



柴田文江（しばたふみえ）
プロダクトデザイナー・
多摩美術大学教授

編集部が丁寧に取材しているので、実際の制作現場をのぞくような感覚で読むことができます。私のページでは、高校生も見たことがあるようなプロダクトを掲載するようにしました。見たことのあるものが、今勉強しているデザインの延長でつくられていることがわかると、生徒にとって参考になるのではないでしょうか。

今学んでいることが将来どのように役立つのか、わからないまま学習を進める生徒は多いと思います。しかし、「作家の手法」を通してデザイナーのリアルな姿や声を知ることで、デザインという仕事が、社会と密接につながっていることを実感できるのではないでしょうか。生徒には、この教科書で学んだ先に、社会に役立つものがあるということを感じてほしいと思います。



P.61「作家の手法 柴田文江」

作家の言葉を掲載

作家がどのように制作に向き合っているのかを、作家自身の言葉から感じ取ることができます。

制作の裏側がわかる

制作過程の写真など、普段は見ることができない、作家の制作の裏側を詳しく紹介しています。

「作家の手法」掲載作家一覧

●池田 学（いけだまなぶ）（画家）…P.18〜19
●塩田千春（しおたちはる）（美術家）…P.39
●皆川 明（みながわあきら）（テキスタイルデザイナー）…P.57
●柴田文江（しばたふみえ）（プロダクトデザイナー）…P.61
●川村真司（かわむらまさし）（クリエイティブディレクター）…P.75

4 切り離し式「混色のヒント&トーン別カラーガイド」

色に関する資料を全14ページと、豊富に用意しています。
巻末の切り離し式資料は、いつでも手元に置いて使うことができます。



名取和幸（なとりかずゆき）
色彩学研究者・
一般財団法人日本色彩研究所
常務理事

これは便利ですね。でもそれだけではありません。「混色のヒント」は、絵の具による色づくりをサポートしてくれます。生徒たちはどんな新しい色たちを生み出すのでしょう。楽しみです。さらに反対の色相の色を混ぜたときの複雑な色のニュアンス、黄色に黒を少し混ぜると緑にシフトする不思議さなど、アナログならではの色の体験もどうぞ。

かたや「トーン別カラーガイド」は、PCなどのデジタルツールを使うときの色指定の参考になります。色相とトーンによるこの資料に、絵画や製品の色を並べると色の特徴がわかりますし、縦や横に並ぶ色はまとまりのある色の組み合わせとなっています。手元に置いてどうぞご活用ください。

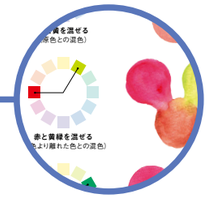


表面

絵の具の混色に

色相環を意識しながら、混色を考える際に参考になる資料です。





裏面

デジタルでの制作に

CMYK値、RGB値、HTMLカラーコードを示しました。デジタルで制作するときにご活用ください。

